Eruption cyst とと思われる 1 例

金子憲章・亀山忠光・大楠道生・熊谷京子
竹中将純・朱雀直道

A case of eruption cyst

Noriaki KANEKO・Tadamitsu KAMEYAMA・Michio OHKUSU・Kyoko KUMAGAE
Masazumi TAKENAKA・Chokudo SUJAKU

Abstract: A 9 month-old male was found to have localized swelling on his left maxilla second deciduous teeth by his mother. The swelling gradually increased to 7-8 mm in one month. X-ray showed nothing particular. The lesion was removed. In pathological findings, the epithelium was not observed in the cyst wall, but by clinical and radiographical findings, it was diagnosed an eruption cyst.

Key words: eruption cyst, deciduous teeth

緒 言

乳幼児にみられる疾患で、治療を必要としない epidermal pearl, eruption cyst, eruption hematoma 等の記述はなされていない。なかでも eruption cyst についての詳細な記載は、成書¹⁻⁴⁾においても少ない。

最近われわれは、本症と思われる 1 例を経験したので報告する。

症 例

患 者：9 か月 男性。

初 診：昭和57年 6 月■日。

主 訴：上歯槽部の限局性の膨隆。

家族歴・既往歴：特記すべき事項は認められない。

現病歴：昭和57年 5 月■日、上歯槽部に限局性、暗紫色の膨隆を母親が認めたが、そのまま放置した。しかし膨隆は徐々に増大し、色も濃くなってきたため、昭和57年 6 月■日某歯科を受診し当科を紹介された。

現 症

全身所見：身長 80 cm、体重 9 kg で、Kaup 指数14

でやややせていると思われるが他に何ら特記事項は見当らない。

局所所見：顔貌には異常なく顔面良好（写真1）。

口腔内所見：上歯槽部に大きさ 7×8mm の円形で、半球状の暗紫色を呈する限局性の膨隆を認め、触診により弾性軟を呈し、波動を認めた。圧迫による退色および

写真 1 顔貌所見

久留米大学医学部口腔外科学教室

（主任：朱雀直道教授）

Department of Oral Surgery Kurume University
School of Medicine (Chief: Prof. Chokudo Sujaku)

受付日：昭和58年12月14日

写真 2 口腔内所見

写真 3 X線写真

写真 4 2か月経過後の口腔内所見

圧痛は認めなかった。A|A は歯冠 2/3, B| は歯冠 1/3 の萌出を認めた(写真2)。

X線所見: |B| 歯冠が、粘膜直下に存在し、すでに歯冠は完成している。歯冠上に骨質は認めず、歯槽骨には吸収像はなかった。上顎乳切歯歯根は形成途中であった(写真3)。

臨床診断: Eruption cyst.

写真 5 病理組織所見 (H-E, ×40)

処置および経過: |B| 歯槽頂部に長さ 10mm の切開を加え、漿液性茶褐色の液体の流出を認め、同時に |B| 歯冠の露出をみた。経過は良好で2か月後には写真4のように |B| は正常に萌出しており、他に何ら異常は認められなかった。

病理組織学的所見: 正常な口腔粘膜上皮下に線維性結合組織が認められ、その下方に上皮の脱落剝離したと思われる扁平な細胞を一部認めた他に著変はなかった(写真5)。

考 察

Eruption cyst は、WHO の分類⁵⁾では歯原性で非角化性の上皮をもつ嚢胞とされ、萌出しつつある歯冠直上に発生する嚢胞をいい、臨床的に青味がかった腫脹を現す表在性の嚢胞と定義されている。

一方成書¹⁻⁴⁾においては、萌出嚢胞についての詳細な記載は少なく、いずれも萌出途上の歯冠上に現れる扁平上皮を有する小さな嚢胞で、含歯性嚢胞の一型としている。

以上のことより考えると、本症例は臨床所見は全く同様であるが切除標本に上皮がみられなかったことより、WHO の診断基準には合致しない。

しかし、その報告はきわめて少なく、処置が切開あるいは開窓といえることもあり、病理組織学的検索を行った報告はほとんどみられない。また、Eruption Hematoma としての報告も散見され、その成因もいまだ明確でなく、eruption cyst との区別も明白でない。

従来、本症は対合歯あるいは硬い食物やおしゃぶりなどの刺激が歯肉直下の歯牙に加わり、境界明瞭な膨隆を生じたものを臨床的に呼称したものとされているが、広義に解釈し、本症を今回は Eruption cyst として取り扱った。

今回のような症例をどうするかは数多くの報告がなされるとともに、病理組織学的検索が加えられ、今後検討される問題ではなかろうかと考えている。

その頻度については、Clark⁵⁾が新生児 2,910 名のうち 6 名 (0.2%) に本症を認めたと記載し、さらに Basker⁷⁾は odontogenic cyst 3,538 例のうち eruption cyst が 19 例 (0.5%) あったと述べているのみで、きわめて少ないように思われる。しかし、Seward⁹⁾は 224 人の乳児を対象とした 4,480 本の萌出時の局所障害についての観察によると、Eruption cyst は乳切歯で 11%、乳犬歯および乳臼歯には 30% にみられたとしており、その発生頻度は意外に高いのではないと思われる。

その数少ない症例を Seward⁹⁾は文献的に集計し臨床統計的観察を行っている。

それによると、年齢は新生児より 21 歳の成人までにみられ、性別では 2:1 で女性に多く、上顎より下顎に多く認められている。臨床所見では、歯槽頂に表面滑沢な無痛性の膨隆を呈し、色は青味を帯びた赤青色、青黒色で、大きさは 0.6mm と小さかったと述べている。また X 線的には、歯槽骨嚢に歯への影響はないと述べている。病理組織学的には自験の 7 例中 6 例に扁平上皮の嚢胞壁を認めているのみで、他のものについては、詳細な記載はみられない。治療については、大多数が切開を行っているが、抜歯を行った症例や経過観察したものもみられる。

一方国内においては、黒柳ら¹⁰⁾、福島ら¹¹⁾の Eruption hematoma としての 1 例報告をみるにすぎない。黒柳らは、切開をほどこし、病理組織学的にも重層扁平上皮の嚢胞壁を認めている。福島らは、臨床診断のみで治療することなく、1 週間後に自潰し、嚢胞は消失し、歯牙の萌出をみたとしている。Eruption cyst の成因については、外傷や何らかの局所刺激により発生する考え方が多いが、明確でなく、今後の十分な検討が必要と思われる。

結 語

われわれは、9 か月男性に発生した B の Eruption cyst の 1 例を経験したので報告した。

本論文の要旨は、第 41 回日本口腔外科学会九州地方部会で発表した。

引 用 文 献

- 1) Thoma, K.H.: Oral Surgery. 4th Ed, Mosby Co, St Louis, 1963, p 855.
- 2) Gorlin, R.J. and Goldman, H.M.: Thoma's Oral Pathology I. 6th Ed, Mosby Co, St Louis, 1970, p 449.
- 3) Lucas, R.B.: Pathology of Tumors of the Oral Tissues. 3rd Ed., Churchill Livingstone, Edinburgh London and New York, 1976, p 362.
- 4) Killey, H.C., Kay, L.W., et al.: Benign cystic lesions of the jaws, their diagnosis and treatment. 3rd Ed, Churchill Livingstone, Edinburgh London and New York, 1977, p 75.
- 5) Pindborg, J.J. and Kramer, I.R.H.: Histological typing of odontogenic tumors, jaw cysts, and allied lesions. World Health Org. Geneva, 1971, p 40.
- 6) Clark, C.A.: A survey of eruption cysts in the new born. Oral Surg 15: 917 1962.
- 7) Basker, S.M.: Synopsis of Oral Pathology. 3rd Ed, Mosby, St Louis, 1969, p 206.
- 8) Seward, M.H. Local disturbances attributed to eruption of the human primary dentition. Brit Dent J 130: 72~77 1971.
- 9) Seward, M.H.: Eruption cyst: an analysis of its clinical features. J Oral Surg 31: 31-35 1973.
- 10) 黒柳綿也, 川端輝彦, 他: Eruption Hematoma の 1 例. 口科誌 23: 514-517 1974.
- 11) 福島英子, 大塚健正, 他: Eruption Hematoma の 1 例. 愛院大歯誌 14: 78-79 1976.